

高校野球指導者の  
投球障害に対する知識と意識に関する研究

順天堂大学  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号：4118059  
氏名：千田 淳和

【目的】

高校野球指導者を対象に投球障害に関する知識および投手の障害予防と競技力向上、チーム成績向上の観点からみた指導における意識を調査し、現在の高校野球に携わる指導者の投球に対する知識や意識の実態を明らかにすることを目的とした。

【方法】

高校野球指導者に対して質問紙調査を実施し、投球数について投球障害予防、競技力向上、チーム成績向上の観点から回答を得た。また、投球障害発生要因に対する知識を5件法で質問した。その後、投球障害の有無やポジション別、所属チームの競技成績別、最終競技歴別に分類し比較した。

【結果】

投球障害の発生要因に関する知識は、概ね高い水準を有する集団であることが示された。その中で、1試合の投球数について競技力向上とチーム成績向上の観点の差では、投球障害の経験者の方がその開きが大きかった ( $p=0.03$ )。ポジション別では、投手群の方が捕内外野手群と比べて競技力向上の観点で年間イニング数をより多く回答していた ( $p=0.03$ )。また、それらの意識は国内外で推奨されているガイドラインとの間に乖離がみられた。

【結論】

対象者の投球障害発生要因に対する知識は、比較的高い水準であることが示された。一方で、投球数への意識は、日本臨床スポーツ医学会の提言やMLB機構が推奨するガイドラインと乖離していることが明らかとなった。また、指導者の過去の経験が影響している可能性が示された。